

August 2011
Vol.34

<http://www.yamaha-motor.jp/pool/>



プール・イノベーション 2011
ヤマハプール最新技術から見える、
新しいプールの姿。



当社が管理・運営を行う、スポーツ健康増進施設 「尼崎スポーツの森」が5周年

平成23年5月29日(日)に「尼崎スポーツの森」で施設オープン5周年の記念式典が開催された。
当施設は、兵庫県の「尼崎21世紀の森構想」を担う施設として、平成18年5月31日のオープン以来、地域と一体となった施設運営を心がけ、スポーツやレクリエーションを通じて地域の人々の健康増進と潤いのある生活づくりをサポートしてきた。
式典には、関係者約30名が参列し、5周年を記念した“尼崎21世紀の森杯”グラウンド・ゴルフ大会(5月14日)、フットサル大会(5月21日)の各優勝者への表彰式も行われた。また、当日は水泳大会(尼崎スポーツの森CUP)が開催され200名以上の参加者で賑わった。当施設ではこれからもハード、ソフト両面の充実を図り、利用者に西日本最大級のスポーツコンプレックスにふさわしいサービスの提供に努めていく。

5年間の主な歩み

- 平成18年 ●西日本最大級のスポーツ施設「尼崎スポーツの森」オープン
 - 「のじぎく国体」の競泳・シンクロナイズドスイミング競技、「のじぎく大会(全国身障者スポーツ大会)」の会場に
 - 50mプールを冬期のみスケートリンクに変更して運営
- 平成20年 ●265人アクアビクスでギネス認定
 - 北京オリンピック出場のスペイン、チェンジア、ジンバブエの3カ国の選手の合宿地に選ばれ、各国チーム選手激励会と記念植樹式典が行われた
- 平成22年 ●開館4年で利用者150万人突破
- 平成23年 ●2月6日、5シーズン目にしてアイススケートリンク来場者30万人を達成
 - 7月9日、開館5周年で利用者が200万人を突破



尼崎スポーツの森CUPの様子

■「尼崎スポーツの森」施設概要

●敷地面積34,978㎡ ●建築面積9,300㎡ ●延床面積12,400㎡

メインプール (屋内プール)	[大きさ] 50m×25m(全10コース/国際公認8コース) [観客席] 約2000席 [可動床] 0～3mで水深を変化(4分割調整可能) [用途] 競泳、シンクロ、水球競技の他、健康運動対応(冬季にはアイススケートリンクとして使用)
サブプール (屋内プール)	[大きさ] 25m×35m(全14コース/国内公認12コース) [観客席] 約320席 [可動床] 0～2.8mで水深を変化(2分割調整可能) [用途] 健康運動の他、競泳、水球等の練習対応(温水、子供プールを付随)
その他の施設	●フィットネス施設 ●ウォータerpark(屋外プール) ●フットサルコート(3面) ●グラウンド・ゴルフ(全16ホール) ●森のギャラリー・回遊廊 ●森のこども広場 ●のじぎく広場(多目的広場)

営業所のご案内 プールのことならお気軽に

ヤマハ発動機株式会社 プール事業推進部 TEL 053-594-6512 〒431-0302 静岡県湖西市新居町新居3078

東京営業所

販売課 TEL.03-3454-2434
〒108-0023 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウイングビル3F
東北販売課 TEL.022-301-7102
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台ビル5F
中部販売課 TEL.052-218-4366
〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦1-17-26 ラウンドテラス伏見 4F

西日本営業所

販売課 TEL.06-6268-0520
〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町3-4-16 船場オーセンビル4F
九州販売課 TEL.092-472-7815
〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵3-13-10 スピリッツ福岡D

<http://www.yamaha-motor.jp/pool/>



プール・イノベーション2011 ヤマハプール 最新技術から見える、 新しいプールの姿。

子どもたちが水に慣れ親しむための幼児用プール。泳ぎを覚えるための学校用プール。民間スポーツクラブや競技用に特化した公共プール。さらに、レジャープールや医療施設への導入など、プール市場は着実に広がっている。

今後、これら各分野における発展だけでなく、次の時代にむけてプールの役割はどう進んでいくのだろうか。

その筋道のひとつとして、常に市場を牽引し続けているヤマハ発動機のプール事業と、プール市場の歴史について振り返ってみたい。

さらに、最新技術と共に、現在の水泳とプールについて探ってみよう。

【鈴木大地（すずきだいち）PROFILE】
ソウルオリンピック100m背泳ぎ金メダリスト
順天堂大学スポーツ健康科学部准教授
今年4月、財団法人日本水泳連盟常務理事に就任

日常の中の贅沢空間で 身も心も解き放つ

リゾートでの安らぎや英気を養う醍醐味を
自宅プールで味わう価値。

時に疲れた体を癒すリラクゼーションとして。

時に明日への活力と身体づくりを目的として。

今、ライフスタイルや住宅事情に合わせて

プールのある暮らしをイメージする人が増えている。

たとえばスポーツクラブさながらの充実した設備で
本格的にスイムを楽しむ空間に。

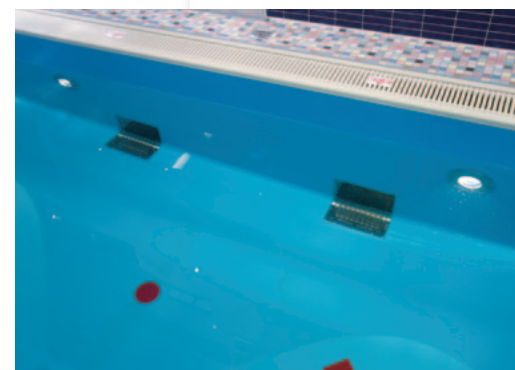
個人あるいは家族の楽しみの場から社交の場にも
プライベートプールは活躍してくれるはず。

日常の中の至福を身近に…

特別な空間で特別な時間を独占できる贅沢感に
こだわってみるのもいい。



M氏邸 【プールサイズ:10m×2.3m 水深:1.25m】
入水階段 水中照明×2



プールの水を美しく幻想的に照らす水中照明は
ヒーリング効果も期待できる

2 特集:プール・イノベーション 2011
ヤマハプール最新技術から見える、新しいプールの姿。

9 当社が協力企業として参加する
鹿児島市“新鴨池公園水泳プール施設”がオープン

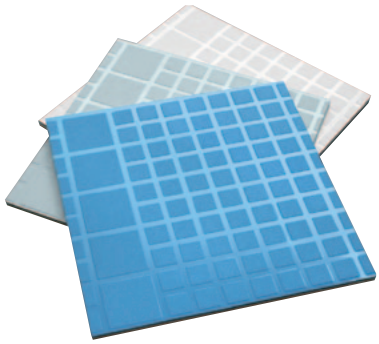
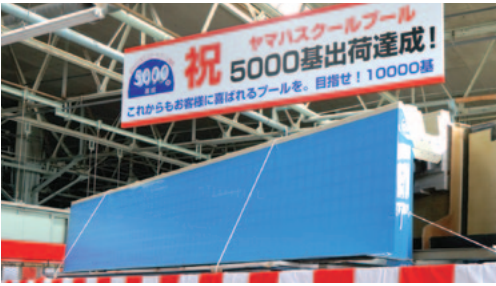
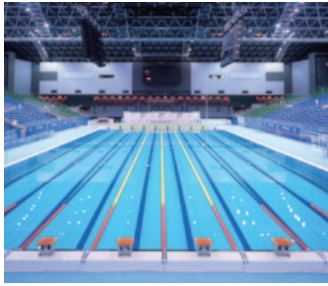
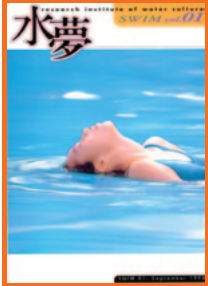
10 プールサイドシェルター

11 YAMAHA INFORMATION

13 水中運動核心論 Presented by 宮下充正

14 Relay talk Vol.14 水夢人 宮下充正氏

時代とともに形、そして役割を変えるプール



ヤマハ発動機株式会社 プール事業の沿革

1974年

国内初のオールFRP製プール
ファミリープール発売を開始

1976年

家庭用プール「スイミングプール」を発売

1978年

25mスクールプール「スクール25」の
第1号を納入

1984年

学校用プールの販売を開始

1985年

50m公認スクールプールを発売

1986年

流水プール、直線スライダーを発売

1986年

ファミリープール用シャワーセット、
アスレチックスライダーを発売

1992年

プラスセラミックプールを発売

1993年

スクールプール納入2000基を達成

1993年

シャワーユニット、コースロープBOXを発売

1994年

プール用緊急給水システム発売

1995年

プールサイドシェルターを発売

1996年

プールサイドインナー過器を発売

「水夢」発刊(創刊号)

1997年

緊急遮断弁システム発売

1998年

ウォーターパーク納入100施設達成

1999年

プール発売25周年を迎える
ISO14001認証取得

1999年

「第9回世界水泳選手権大会福岡2001」
特設プールを受注

1999年

「ヤマハスポーツ文化フォーラム」開始

1999年

第1回ヤマハスポーツ文化フォーラムを
全国10都市で開催

2000年

スクールプール納入4000基達成
プール総納入実績20000基達成

2001年

「第9回世界水泳選手権大会福岡2001」
にて特設プール3基設置

2001年

世界水泳福岡2000メインプール
「水夢」がグッドデザイン賞金賞受賞

2002年

国立スポーツ科学センターがオープン
(競泳・シンクロプール納入)

2002年

ISO9001認証取得

2003年

プール施設の管理運営事業を開始

2004年

たて型ろ過機を発売

2005年

デカバトス in Hokkaido が
オープン

2006年

「ユニットプールきらき」が
グッドデザイン賞受賞

2006年

洗眼ユニットを発売

2007年

尼崎スポーツの森がオープン

2010年

スクールプール納入5000基を達成

2010年

「ノンスリップフロアアクウォーク」を発売

2011年

「フラットプールグラシンナ」を発売

【プール製造技術の開発】

第1期

1974年～1984年

FRPプールユニット技術の確立期。
家庭用子どもプールから水泳教育へ
安全性、短期施工、製造品質の追求。

【プール技術の応用と周辺アイテムの整備による総合力の強化】

レジャー施設向けプールの開発に伴う安全と快適などを目的にした
総合プール技術への成熟。

第2期

1985年～1999年

ウォーターパークの増加
プール周辺アイテム
の普及

【目的別、専門的なプール施設分野へ進出】

教育・健康・医療・スポーツなど、それぞれの利用目的に
対応した専門的なプールが求められてきた。
プール技術も可動床などを取り入れ多様化。

第3期

2000年～2009年

健康増進・予防医療
トップアスリート用
などへ

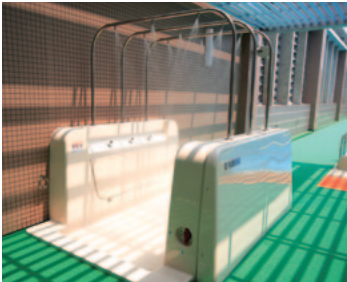
【多様化する目的に対応した新技術の開発】

多様化したプールは、さらに「安全性」「経済性」「機能性」
を追求した高付加価値化が進む。アクウォークなどの
新技術が開発され、市場導入が始まる。

第4期

2010年～

ノンスリップフロア・
フラットプールなど
細部技術への探求



東京オリンピックが開催された1964年以降、
スポーツへの国民の関心は高まり学校のプール導入
は加速した。泳ぐ技術は水の事故を防ぐという意
味からも推奨され、子どもたちの泳力向上は学校
授業でも重視されている。

またそうした鍛錬を出発点に、オリンピックで外
国の選手と戦うことを最上位の目標とし水泳は長
く競技水泳のための一面を主としていたが、スポー
ズクラブ市場の成長が、プールでのフィットネスや
ウォーキングなどの水中運動メニューを増やしプー
ル利用者の間口を広げた。また国内の経済成長が
世界の大国と肩を並べるようになると、余暇が増
加し余裕が生まれ、レジャー志向の強いプール施設
が建設されるようになった。こうした各時代の水
泳文化、あるいはプール施設とともにヤマハプール
も変化してきた。

それまで単なる建築物だったプールを、工業製品
として捉え、そのマーケットやユーザーを具体的にイ
メージし、そこにいちばん求められるプール製品を造
り販売する。プール施設の歴史はヤマハ発動機プー
ル事業の歩みに合い揃う点が多い。こうした各時代
の水泳やプールの動向に密接に関わり、常にその時
代が求めるプールのあり方をヤマハはメーカーの立
場から検証して来たからだ。

ヤマハ発動機が「プール利用者の底辺拡大」を提
唱し、第1回目の「ヤマハスポーツ文化フォーラム」を
開催したのが1999年。その当時、ウォーター
パークが全国に普及し、プールがレジャーだった頃に
「プールによる健康増進と第2次予防」をテーマとし
た。今思えばまさに「予言」であったとも感じられる。
プールではこんなこともできる。プールならばこん
な人も利用できる。

そうしたビジョンは、未来予測だけではなく、そ
れまでに2500基以上の学校プール納入の経験
と、試行錯誤の中で結びついた各分野の人脈により
構築できたものだ。

21世紀の幕開けとともに注目を浴びた水中歩行、
アクアエクササイズ。
これら水中運動は、健康増進・予防医療リハビ
リテーションなどを目的とし、体力や身体的に決し
て万全でない人の利用も少なく無い。

それまでの、プール事業と社会のプール普及を照ら
し合わせると次のような時代があったと言えるだろう。
〈第1期〉1974年から1984年、幼児用学
校用プールなど教育施設の充実。
〈第2期〉1985年から1999年、プール周辺
アイテムとウォーターパーク施設の増加。プールがレ
ジャー施設としての地位を確立する。屋内プール施
設の増加により、時期を選ばず年中泳ぐというこ
とが一般的に。

〈第3期〉2000年から2009年、競泳用、医
療やリハビリ施設へのプール導入。地域型スポーツ健
康増進施設の普及と利用目的の細分化が顕著に。
指定管理者制度の導入期。

利用者を予測し、実際に利用者の反響を取り
入れ、次の技術へ反映する。そして最も重要なこ
とは、前提として必ず「安全性」の視点から逸脱
しない技術であること。こうした安全というコン
セプトに則った製品は、多少の形状の変化があつ
たとしても時代に受け入れられ、生き残ってきた
ともいえる。

近年、ニーズの多様化により新技術の市場導入が
目覚ましいヤマハFRPプール。2010年に発売
が開始されたノンスリップフロア技術「アクウォーク」、
そして今年、プール底面を同一水深とする「フラット
プール」が市場に導入された。

すべりにくい床面と、均に平らな床のプール。こ
れらの技術は、実際にプール本体を見てもこれまで
のプールと劇的に違いを感じる人はかりではないか
もしれない。にも関わらず、なぜこうした細部の技
術にこだわったのか。またあえて今この時期にこれ
らのアイデアを「新たなプール技術」とし、市場に
発表したのか。これらの技術の位置づけとは何を意
味するのか。

生涯スポーツ担当理事でもある鈴木大地さんの
客観的な意見もいただきながら、その内容をレポー
トしてみよう。

今、プールに求められるもの そして、これからの役割

「鈴木大地氏インタビュー」

「聞き手」ヤマハプール事業推進部

ヤマハがプール事業をスタートさせて37年。泳ぐためのプールから、水中運動やリラクゼーション、健康増進と様々なタイプの人が利用することになり、1つのプールであらゆる利用目的に対応できる機能が求められる時期を迎えている。

ここでは、これまでのプール事業の変遷を振り返りながら、これからのプールのあるべき姿、求められる役割について財団法人日本水泳連盟常務理事・生涯スポーツ担当の鈴木大地氏にお話をいただいた。



鈴木：床面が滑らないことは素足で行うアクアビクスや水中ウォーキングには欠かせない機能だと思っています。競泳初心者においては、途中で立つても床が蹴りやすいと楽に進むことができますね。実際に競泳ではプールの床に足を着くことはほとんどないのですが、側壁に滑り止め加工しているとターンも滑らないし、背泳ぎのスタートもタッチ板がなくても滑る心配がなさそうではないですね。

ヤマハ：さらにプールの水深を1.1mと一定にしました。従来のプールは、さまざまな利用者が使えるようにと水深を変えたり、排水のしやすさを考慮して床に勾配をつけていましたが、世代や体型を問わず、水中運動に適した水深を追求した結果、同一水深1.1mのフラットプールを開発しました。

鈴木：なるほど、この水深だと身長の高い女性や高齢者でも心臓の下辺りに水面がくるので水の中でも動きやすいでしょうね。

ヤマハ：アクアビクスなどの水中運動を行うと大きな波がおきやすいので、オーバーフローの水受け部分を深くして、消波効果を高めたいことも特徴です。従来のものから容積が



「全周オーバーフロー方式」を採用した、同一水深(1.1M)のフラットプール

160パーセントに増加した「全周オーバーフロー方式」を採用しています。

鈴木：消波効果があると、大きな波や水飛沫が起きにくいので、顔に激しく水がかかったり、頭を水没させる心配がないので泳げない人も安心して運動できそうですね。

私は生涯スポーツとしての水泳を普及させる立場にいますが、健康にもいい水中運動のニーズは確実に増えるでしょうね。今までの水泳は「ひたすら泳ぐ」というものでしたが、現在は水着になってプールに入り、そこで動くこと全てを「水泳」ととらえています。水に顔を付けなくても水泳を楽しむことができます。呼吸のことを心配しなくてもいいし、ヘアスタイルの乱れだって気にしなくていい（笑）。泳げる人だけが水泳をやるのではなく、泳げない人も水泳ができるということは生涯水泳の大きなポイントです。

高級感溢れる「グランシーナ」で水と人の理想的な関係を

ヤマハ：こうした機能面に加えて「グランシーナ」のもうひとつの特徴は、外観にもこだわったことです。美しい石目調のゲルコートを施したことによってタイル貼りの外観を上回る上質な高級感を演出することに成功しました。鈴木：なるほど、確かに大理石のように見えますね。競泳プールは機能性重視ですが、スポーツクラブやレジャー施設のプールでは外見のよさで大事ですからね。ヨーロッパやオーストラリアにはまるで植物園の中にあるような美しいプールがたくさんあります。丈夫なFRPプールでタイルに勝るとも劣らない高級感が出せたのは画期的ですね。

ヤマハ：民間のスポーツクラブの会員さんは、プールの雰囲気にかたわり、高級感を求めます。高級感を出すには一般的にタイルが使われますが、タイルははがれや割れなど、維持面での欠点もありました。それに対してFR

時代のニーズとともに歩んだ37年のヤマハプール事業

ヤマハ：弊社のプール事業は1974年から時代に合わせて展開してきました。ポルト素材の技術を生かし、家庭向けプールを普及させようとしたのが発端で、37年の歴史になります。

鈴木：私は7歳から水泳を始めたので、ヤマハさんのプール事業スタートと私の水泳人生は重なりますね。

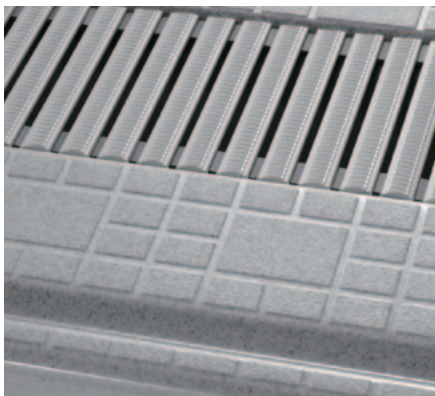
（ヤマハプール事業の歩み」の年表を見て）90年代にはシャワーユニットが導入されたり、その後もプールサイドにコースロープやろ過機を収納する機能がついたり、現場の要求をきめ細やかに取り入れた周辺アイテムの開発は、さすがプール事業に精通しているヤマハさんならではのですね。

ヤマハ：弊社はプールを使う人の細かなニーズに対応するようプールの役割をしっかりとみつめてきました。

2001年の福岡での世界水泳以来、ニーズは健康志向型のプールへ移行し、市民プールレベルでは健康志向と競泳志向が共存できるプールが求められるようになりました。

鈴木：私も選手をしているときはプールを競泳利用としてしか見ていませんでしたが、今は生涯スポーツ水泳に携わり、水中運動を研究のフィールドにしていますので、プールの役割を広くとらえるようになりました。

1999年、プールが大きく分けてレジャー型と競泳型のふたつの役割だった頃「ヤマハスポーツ文化フォーラム」で宮下充正先生が



石目調のゲルコートを施した表面仕上げ

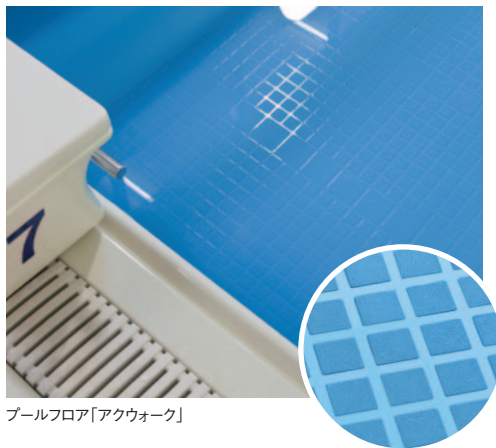
Pは、メンテナンスがしやすく、さらに床や壁の凹凸の陰影は見た目の美しさだけでなく、滑りにくさと素足に触れる風合いにもプラスになっています。

鈴木：見た目は大理石、でも滑らない！本当

水中運動という新たな健康志向型の利用を提唱されました。それから10年以上経ち、市民プールでは泳ぐ人と歩く人が共存するのは当たり前になり、確かにプールの役割は増えてきたと思います。

水中運動を考えたこれからのプール「グランシーナ」で広がる可能性

ヤマハ：これからのヤマハFRPプールは多様化するニーズに対応する新機能を備えたプールを提案していきます。その1つが「グランシーナ」です。最大の特徴はアクアビクスや水中歩行といった水中運動がより快適に行えるさまざまな機能を備えていることです。プールフロア（アクウォーク）や側壁全面に滑りにくい加工を施したことで、プールでの歩く、止まる、跳ねるといった水中運動が的確にフロアでできるようになりました。



プールフロア「アクウォーク」

の大理石は冷たすぎますが、これは冷たくない！それにタイルのように欠けることがないので安全ですね。機能的にもビジュアル的にもすばらしいじゃないですか。

ヤマハ：千葉県匝瑳市と東京都町田市のスポーツクラブでプールフロア「アクウォーク」を先行導入していただきましたが、高い評価を頂いています。滑りにくいので、コーチの指導がしやすく生徒さんへの補助が楽になったとの声も頂いています。

鈴木：うちの大学（順天堂）でも取り入れれば、選手はもちろん近隣住民の健康増進にも役立つプールになりそうですね。

ヤマハ：これからも弊社はプール事業で日本の水泳の底辺拡大に貢献していきたいと思っています。

鈴木：私は今まで以上に水泳の普及活動に全力を注いでいきます！



グランシーナ模型で感触を確かめる大地氏

大地の目

泳がない人へのプール。その技術は世界の視点と同じだ。

高級感、アクウォーク、同一水深といった最新のヤマハプールの技術は、スイマーにとってはあまり重要な技術ではないかもしれない。しかし、昨今のプール利用者は泳ぐことだけを目的にしていない。例えば水中歩行やアクアエクササイズは若い女性にも人気が高い。水着のファッション性や髪を水に濡らさなくてもよい気軽さもあって、水中運動のためにプールに通う人は、確実に水泳とは異なる目的をもっているといえるだろう。

近で重要なものは無いだろう。まだまだ国内で地域格差がある水泳。私は国全体として、水泳王国になってほしいと考えているが、それにはより多くの人たちがプールに足を運んでくれることだと思ふ。そのための技術をリーディングカンパニーが開発し提唱することは、何よりも心強く感じる。

第4期の新たなプール時代としてその扉をあけたヤマハプール。品質、機能、そして有事を含めた安全性といった一歩も二歩も進んだプール技術をきっかけに、多くの人たちがプールに足を運んでくれるのではないかとともに期待したい。

プールで歩くことやアクアエクササイズも水泳である、とインタビューでも話させていた。生きる術であり、生涯スポーツとしても取り組める「水泳」ほど身



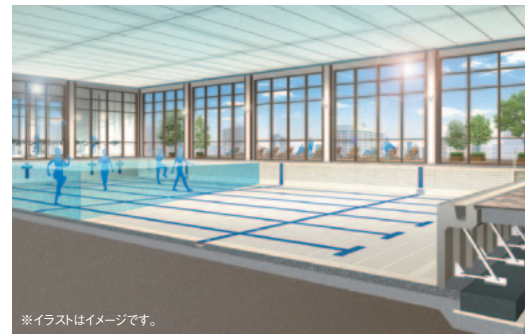
あなたにとって、よいプールとは何だろう。ヤマハ発動機はいつも、そしてこれからもその大きな疑問を考え続け、新しい技術で応えていく。

より多くの人にプールを。新次元のプール環境を提案

「グランシーナ」誕生

肌の露出が多い状態で全身を預けるスポーツ環境、プール。その器を見つめ続け、より高い機能を目指し、快適なプール環境への進化を目指し「グランシーナ」は誕生した。

すべての水中運動を安全かつ、最大限の効果を生み出すための機能を搭載した、ヤマハFRPフラットプールをベースに、ラグジュアリーな演出を施した石目調の表面仕上げが加わり、目的に合わせた機能性プラス、美しさや上品さを兼ね備えたりラックス空間へと一



※イラストはイメージです。



水中歩行

アクアビクス

グランシーナの持つ、優れた機能を紹介

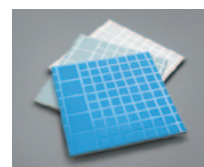
1 水中運動をより快適に

●床

フラットフロア

女性や高齢者の水中運動にも適したプールを追求し、勾配のない同一の水深設計(1.1m)の床を採用した。

アクウォーク(水中運動専用フロア)



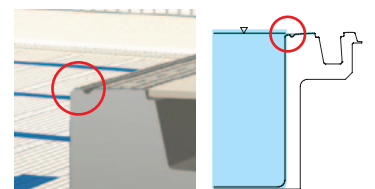
床面にレザーパターンを施し、適度な摩擦抵抗を与えることで、従来のタイルやFRPに比べ水中運動時の余分な負荷を低減し、運動効率の向上を促進する。

●オーバーフロー



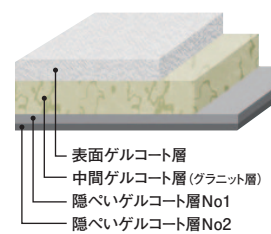
プール本体と一体型の大型オーバーフロー溝は、全周方式により、プール水を越流させる事で消波効果が高く、汚れを効率よく除去でき、常に安定した水質を保持することができる。

●プール上部コーナー形状

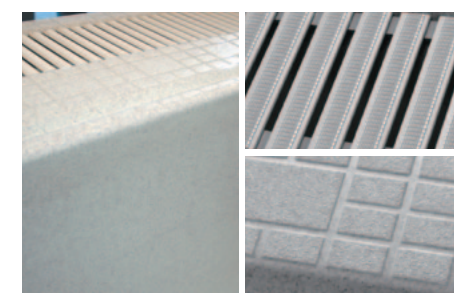


利用者の手や体が触れる回数が多いプール上部コーナーには、スリッパレスパターンを施し、R形状を採用。利用者の安全を確保するとともに、水中運動時の手掛けとしての機能も。

2 高級感ある表面仕上げ

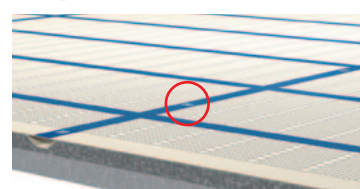


石目調ゲルコートと一体成形のグリッドパターンが、これまでのFRPプールには無い高級感を創出。



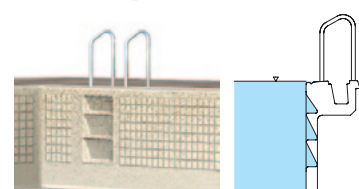
3 完成された基本性能の継承

●分散型吸い込み方式



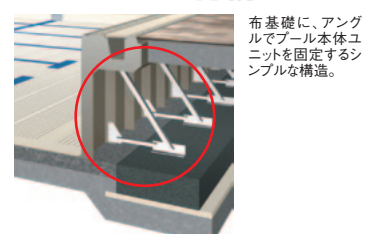
独自のガーテ式吸い込み方式により、吸い込み圧の低減による安全確保と、効率的なプール水のろ過を実現する。

●入水用ラダーステップ



人間工学に基づいた、プール本体に組み込まれた一体型の設計で、壁面ラインに納まり安全を考慮している。

●ユニット取付構造



布基礎に、アングルでプール本体ユニットを固定するシンプルな構造。

ヤマハプールサイドシェルター 新登場

屋外プールの設置に最適な日除けとして好評の「プールサイドシェルター」の仕様や機能を一新。従来タイプのスマートなデザインはそのままに、プール施設に求められる理想の環境を提供します。

特徴1

FRP素材の特徴である、自由曲面を生かした形状で軽快なイメージを演出

特徴2

新たに、構造形式を「吊り屋根方式」に変更し、すっきりとした外観を実現

特徴3

従来タイプよりコンパクトな設計となっており、さらに狭いスペースでの設置にも対応

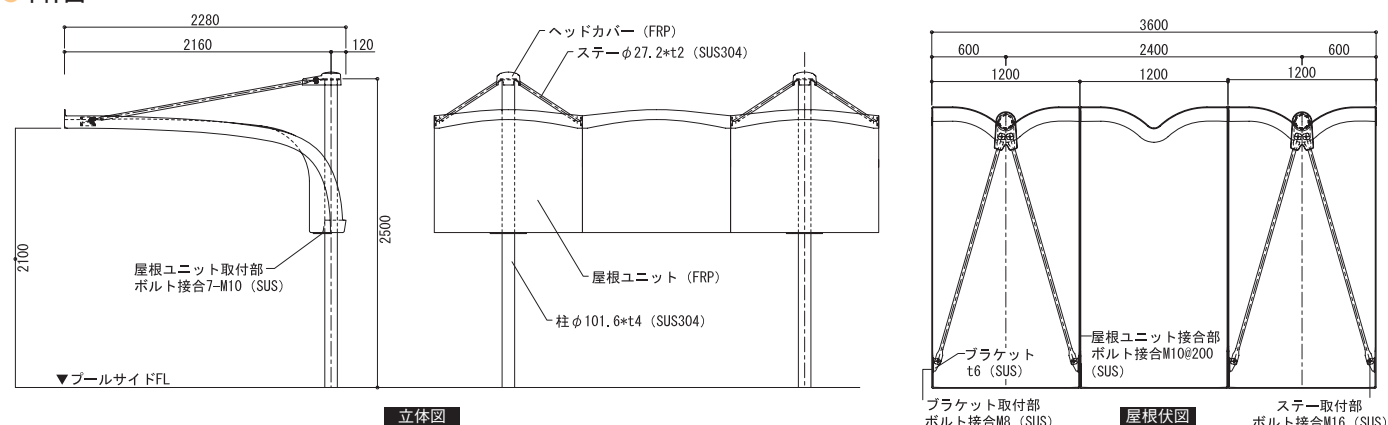
特徴4

支柱など主な金属部分はステンレス製とし、耐久性アップや清掃などのメンテナンス性も向上

仕様諸元(3.6mモデルの場合)

商 品 名	プールサイドシェルター (3.6mモデル)
構 成	屋根ユニット+柱パイプ+ステーパイプ
本 体 サ イ ズ	全長3,600mm×全幅2,280mm×全高2,500mm
屋 根 ユ ニ ッ ト	3ユニット ゲルコート+FRP
柱 パ イ プ	2本 SUS304 φ101.6mm×14mm
ス テ ー パ イ プ	4本 SUS304 φ27.2mm×12mm
カラーリング(屋根下面)	ミルキーホワイト
カラーリング(屋根上面)	アイボリー

●本体図



2011年4月2日、鹿児島市初のPFI事業(民間主導の公共事業)である「新鴨池公園水泳プール施設」がオープンしました。国際大会に対応できる競泳プールと屋外飛び込みプールを備え、市民がいつでも楽しく利用でき、世界を視野に入れた選手や指導者が育つ施設を目指しています。

施設の建設にあたり弊社が担当したのは、屋内メインプールの本体工事です。このプールは長辺50メートル、短辺25メートルで、それぞれの両辺公認プール(縦横公認)としての運用を実現しています。さらに、分割式の可動床を採用、スタート台の台座も新規格750ミリに対応し、国内でも最新かつ多機能な競技用プールとなっています。



地元園児たちによるくす玉開き

名誉館長に鈴木大地氏が就任

オープン日には、竣工記念式典が開催され、名誉館長に就任したソウルオリンピック100メートル背泳ぎの金メダリストの鈴木大地氏現、順天堂大学准教授)の任命式も行われました。5月には西日本年齢別選手権が開催されるなど今後も大規模な大会が期待されます。



森市長から鈴木大地氏への名誉館長任命式

プール設備

50mプール(屋内:国際公認)
飛込プール(屋外:国際公認)
サブプール(既存施設)
25mプール
幼児用プール(屋外)

開館時間

9:00~21:00

利用料金

一般300円
高校生200円
小中学生100円
高齢者・未就学児・障がい者は無料

施設概要

事業概要
鹿児島市が約30年以上前に太陽国体に向けて整備した、鴨池公園水泳プール老朽化にともない、鹿児島市「新鴨池公園水泳プールの整備・運営事業」として2009年7月から着工を開始。市民の誰もがいつでも楽しく利用でき、国際大会に対応できる競泳プールと屋外飛び込みプールを備え、太陽光発電設備等を取り入れた施設として2011年4月2日「新鴨池公園水泳プール」として新たに生まれ変わった。今回の建設工事は約45億円。屋内メインプールの観客席は最大2千人分、年間14万人の利用を見込む。

当社が協力企業として参加する 鹿児島市「新鴨池公園水泳プール施設」がオープン

屋外レジャープール施設 デカパトスとアマラーゴ 今年は7月9日同時オープン

弊社が運営し、関西でのパブリックビジネスの拠点となる2つの施設では、今シーズンも利用促進、地域への認知拡大に向けた取り組みを積極的に行っています。

■デカパトス in Rokko Island
この7月で7年目を迎える神戸市六甲アイランドにある「デカパトス」。今年は7月9日（土）から9月11日（日）までのおよそ2ヶ月間にわたりオープンします。期間中は無休で営業し、8月からは子ども向けのイベントも企画するなど、ファミリーに対応した取り組みで集客の向上を目指します。



※デカパトスイメージキャラクター“パトンちゃん”

関西屈指のアクアリゾートとして、訪れた人が楽しく快適に、そして安心して過ごせるようなプール運営を心がけていきます。

マリンファンには嬉しいイベント 「サマーマリンキャンペーン」を開催

今年のデカパトスでは、マリンファンに向けたキャンペーンを実施しています。
チケット購入時にボート免許を提示していただくと、5名様まで入場料が200円割引に。さらにマリクラブシースタイルの協力により、YAMAHAMARINJETの実機を展示しています。

8月31日（水）までは、1日2回、各回10組

限定でYAMAHAMARINJET撮影会を行っており、特に小さなお子さんやお父さんなどから好評をいただいています。

また、ご来



場者にシースタイルの魅力伝えるため、クルーズ体験やマリナーの施設見学ができる「マリナー参観日」開催のご案内もしています。



■尼崎スポーツの森アマラーゴ

西日本最大級の複合スポーツ施設「尼崎スポーツの森」のウォーターパーク「アマラーゴ」。今年は7月9日（土）にオープンを迎え、翌日の7月10日（日）はオープニングイベントで神戸サンバがやってきました。営業期間は9月11日（日）までのおよそ2ヶ月間です。

アマラーゴは2本のウォータースライダーをはじめ子供から大人まで楽しめるアトラクショ

充実し、この夏もレジャーや健康増進に多くの人を訪れるでしょう。



2011年度競泳国際大会 代表選手選考会・ ジャパンオープン2011に協賛

4月9日（土）～11日（月）、浜松市の古橋廣之進記念浜松市総合水泳場「Tobio」において2011年度競泳国際大会代表選手選考会（東日本大震災復興支援チャリティー大会）が開催されました。注目の男子200m平泳ぎは、第1人者の北島康介選手（アクエリアス）を富田尚弥選手（中京大）が逆転トップでゴール。女子100mバタフライでは加藤ゆか選手（東京SC）が自身の持つ日本記録を塗り替えるなど、連日、選手達の白熱した戦いが繰り広げられました。

また、5月20日（金）～22日（日）には、ジャパンオープン2011（東日本大震災復興支援チャリティー大会）が大阪・なみはやドームにて開催されました。この大会は、第26回ユニバーシアード競技大会、第3回世界ジュニア選手権の代表選手選考会を兼ね、男子200m平泳ぎは、北島康介選手（アクエリアス）が優勝。女子

ンプールが満載。今シーズンも多くのファミリーを迎えるため、無料シャトルバスを運行するなどし、これまで以上に身近なプール施設として運営を行います。



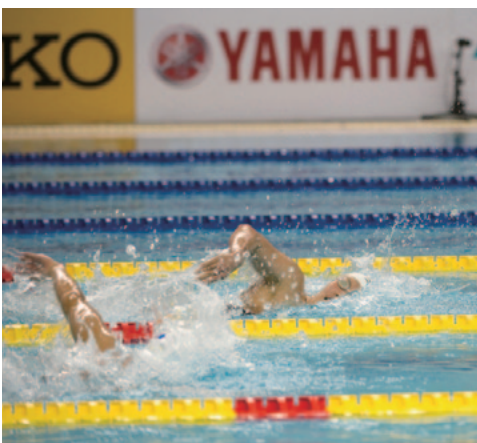
尼崎スポーツの森 入場者200万人を達成

兵庫県尼崎市にある複合スポーツ施設「尼崎スポーツの森」は開館5周年を迎え、今年平成23年7月9日、利用者数200万人を達成しました。平成22年度は過去最高の46万3936人が利用。本年度も6月末まで8万2476人を数え、前年比6%増となっており、開業時より利用者数は順調に増え続けています。



200m平泳ぎは中学3年の渡部香生子選手（JSS立石）が優勝し、50m、100mと合わせ3冠。ロンドン五輪に向け楽しみな新星が誕生しました。

この両大会に、弊社は大会スポンサーとして協賛いたしました。



東日本大震災被災地への 支援について

弊社は、一刻も早い被災地の復旧の一助となるべく、必要な支援を実施してまいります。

●支援物資の提供

インバーター発電機

（0.9kVA～2.5kVAまでのモデル）500台

飲料水／非常用食糧

（ペットボトル飲料水1.5リットル）8000本

（アルファ米・缶詰・豚汁など）5000食

サージカルマスク30万枚

毛布170枚

簡易トイレ5400ヶ

これとは別に電動アシスト自転車「PAS」139台を緊急出荷しました。従業員からの募金活動も継続して行っております。



(財)日本水泳連盟参与、東京大学名誉教授、
コ・メディカル総合学園 首都医校 校長

宮下 充正 氏

PROFILE

(財)日本水泳連盟理事・医科学委員長として、水泳選手養成に対して助言してきた。また、(社)日本ウォーキング協会名誉会長、(社)日本フィットネス協会会長、(社)日本市民スポーツ連盟会長などとして、国民の健康・体力づくりにかかわる一方、コ・メディカル総合学園首都医校校長として、医療・福祉分野における人材育成に参画している。
本誌「水夢」にて「水中運動核心論」を連載中。

マスターズ水泳短水路大会4種目で1位

この大会は4月と5月に、全国20箇所近くの会場で毎年開催され、個人はどこでも出場できますが、1種目1回に限られています。仕事の都合と大会期日、そして参加者のレベルを考え、勝てそうなところを選んでエントリーすることになります。

年齢区分(75〜79歳区分)では、今年私はもともと若くなりまして、必勝を期して自由形5種目にエントリーしました。その結果、5月8日福岡会場1000m1位、2000m1位、5月15日沖縄会場25m2位、50m1位、5月29日札幌会場1500m1位という成績を残しました。

ちなみに言い訳になりますが、沖縄会場の2位は場内の騒音でスタートの合図が聞こえず、隣の選手がスタートを切った後に飛び込み、タッチの差で負けてしまいました。

身体を動かし挑戦する、 いまこそ 氣力と体力を持とう。

水泳は、今年の1月からマスターズの大会を目標に、週に3日から4日くらいプールへ行き、1日1500m泳いできました。

春先には、テニスの文京区民大会に出場しましたし、冬にはスキー、スノーシューに行きました。先週末(取材は6月14日)は広島でのマスターズ

氣力と体力のふたつがあつて、楽しく生きる。

「体育」というと、本来子どもに運動を指導するものであり、体力は向上するという明るい結果が期待されます。

ところが高齢者は違います。運動を実践しても体力の年齢とともに低下するスピードを抑えるだけしか効果はありません。とすると、運動するのは何のためか。「豊かな暮らしのため」「あるいは「豊かに暮らせるため」だと思います。「経済的に豊か」ではありません。人それぞれが満足できる暮らしです。過去に何度が訪問した北欧では、収入の半分くらいの税金を納めなければなりません。でもそれが「老後を豊かに暮らせるため」だから、みんな納得して税金を納めるし、それにやり豊かな暮らしが守られているわけです。

私自身も、全国各地のマスターズの大会に行くのは、ただ良い成績をあげたいだけではなくて、各地の古からの知人に会いたいからです。それが私にとつての「豊かな暮らし」なんです。

釣れるまで釣るという氣力、釣るために溪流を歩く体力、100gが切れるまでゴルフに挑戦する氣力、1日に120回クラブを振って1万5千歩歩ける体力、寒くて遠いところへスキーに行く氣力、急斜面を転倒せずに回転できる体力。このように、豊かな暮らしを送るためには、氣力と体力の両方が必要です。

「豊かに暮らして」生きていることは、「死」と比べて、おそらく「幸せ」なんだと思います。楽しく暮らす。楽しいことを自分から見つけること。それは生きることであり、生きることは、人間の宿命ではないでしょうか。

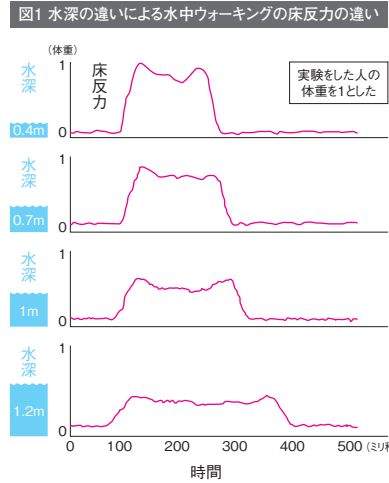
だから、やはり何歳になっても身体を動かし挑戦することがとても大切なのです。



Aqua Exercise Essay 水中運動核心論

presented by 宮下充正

Teaching 18



歩行障害を生じさせる重力

ランニングのように一歩の間から足を高く上げて着地する場合は、かかとに体重の2〜3倍の力がかかります。また、ウォーキングでも体重よりやや大きな重量が、着地とけり出しのときに、かかととつま先にかかるのです。

歩行障害は避けることのできない宿命

歩くという「直立二足歩行」ができるようになった人間には、加齢とともに背骨、腰、ひざ、足首などが変形し、歩きにくくなるという宿命が待ち受けています。

言い換えれば、乳児のときに立って歩き始めてから、老人になるまでの長い年月、地球の引力によってからだの各関節がくり返し圧迫されて少しずつ変形してくるのは避けることができないのです。そうすると、あちこちに痛みが生じ、歩くのが困難となり、杖をついたり、シルバーカーを押したりして歩くようになってしまふのです。

アクア・ウォーキング(その2) 水中歩行の効果とプール

このように大きな力がくり返しかかり発生する歩行障害によって下肢の関節に痛みを感じるようになった場合、浮力によってからだの重さが体重より軽くなる「アクア・エクササイズ」は、歩行能力の回復、運動不足の防止という効きめが期待されるのです(図一)。

密度の大きな水の抵抗

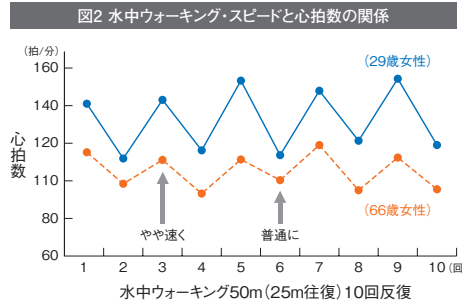
ところで、水は空気に比べ密度がはるかに高いので、水の中であらだが動くときは、動くスピードが高くなるほど、水に当たる面積が広くなるほど、水からの抵抗は大きくなります。たとえば、お風呂の中で手のひらを動かしてみれば、手のひらを「グー」にするよりも、指をそろえて「パー」をする方が、そして速く動かす方が、手のひらにかかる水から受ける抵抗が強くなることがわかるでしょう。

ですから、重力に抗して運動する陸上でのウォーキングよりも、アクア・ウォーキングは抵抗の強い水を押しのけていくので、運動の強度が高くなるのです。

水中を速く歩き、ゆっくり歩く

水に抵抗があるからといっても、ゆっくり歩いたのでは、運動不足解消にはなりません。運動不足を補うためには、適当な速さで歩くことが求められます。しかし、速く歩けばそれだけ運動の強度が高くなるので疲れてしまい、続けて長い時間歩くことはできません。

そこで、筆者がすすめているのは、50mをやや速く歩き(1分から1分30秒くらい)、次の50mをゆっくり歩く(2分近く)というやり方です。5回反復すると、合計



500m歩くことになります。そうすると、からだを激しく動かせる若い人では、速く歩くときの心拍数は140拍/分以上と高くなり、ゆっくり歩けば120拍/分へ戻ります。激しくは動けない年寄りの場合は、心拍数は120拍/分まで上がり100拍/分へ戻ります。

このような水中での歩き方をすれば、呼吸循環機能や代謝機能のはたらきは、望ましい程度に盛んになるのです(図2)。

肺、心臓、血管といった呼吸循環系機能を適度に活動させていれば、全身の血液の流れはスムーズになります。そして、高血圧症や脳卒中の予防につながる可能性が高まります。また、酸素をたくさん消費するように代謝機能の活動が高くなれば、血液中の中性脂肪や総コレステロールの濃度が下がったり、血糖値が正常に保たれたりして、高脂血症や糖尿病の予防につながるでしょう。

PROFILE

みやし ちようまさ
宮下 充正
東京大学名誉教授
首都医校校長
「最近の主な著書」
「子どもに体力をとりもつ」07 杏林書院
「競技志向と健康志向のスポーツ科学」09 杏林書院
「子どもの運動が体の健康をつくる」10 (明和出版)